

一般財団法人京都ボーイスカウト振興会
令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日）
事業計画

1. はじめに

日本連盟が昨年度から開始した「10年後を見据えた中長期計画」で宣言している「2032 ビジョン」と「4つの基本施策」を再掲します。

・ **2032 ビジョン**

様々な団体と繋がっている団・地区・県連盟・日本連盟（以下、全ての組織という）が国際社会や地域から必要とされる存在となっており、「より良い世界をつくる」ことに貢献する青少年を一人でも多く育てている。また、全ての組織で、その担い手として様々な人材が活躍している。

・ **4つの基本施策**

- ① 様々な団体等と連携し地域に根差したスカウティング
- ② 全ての人に開かれたスカウティング
- ③ 青少年の成長・社会的課題の解決に貢献するスカウティング
- ④ 強固な財政基盤を持ち効率的な事業執行を行う日本連盟

・ **京都連盟の活動方針**

これを受けて京都連盟は、次の5項目を活動方針として掲げました。

- ① 加盟員増加を図るための支援を行う
（各団が指導者を確保し、スカウトを増やす活動をする）
- ② 団を強化するための支援をする
（各団が今よりも発展できるよう、情報伝達の強化と効率化を図る）
- ③ 楽しいスカウティングを展開するための支援を行う
（隊長のスキルアップのための支援を行う）
- ④ 各種運営委員会を活性化するための支援を行う
（各団団委員のスキルアップを図り、積極的活動ができるような支援）
- ⑤ 京都連盟組織の将来を見据えた、健全化を図るための支援を行う
（各団の支援を具体的にできる組織運営づくり）

本振興会は定款第3条に「京都府下のボーイスカウト運動を振興し、もって、青少年の品性の向上および国際友愛の精神の育成に役立つことを目的とする」とうたい、設立から半世紀が過ぎました。そのうちの40年間はスカウト人口減少を数えてきました。

スカウト運動は社会から求められているのか、と真摯に受け止め、現代社会において「青少年の成長・社会的課題の解決」にどのように貢献できるのか。これからの10年は①人類の未来世代を対象とし、②地球のほぼ全域をカバーしているスカウト運動の真価が問われる10年であります。

京都の各地で「そなえよつねに」に励むスカウトたちが「日日の善行」によって活動を続けています。スカウトによって地域社会を明るくすることは、町づくり、人づくりに貢献することとなり、本振興会維持会員の皆様のご篤志にお応えできるものと信じております。

2. 次のそれぞれの事業ごとに計画を策定し実行してまいります。

- (1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業
- (2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業
- (3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業
- (4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のため共催事業
- (5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業

3. 事業計画の内容

(1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業

(ア) 助成の対象

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体

(イ) 助成の趣旨・使途

ボーイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、スカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ) 事業予算

事業費として、1,300千円を見込む。

日本ボーイスカウト京都連盟（以下、「京都連盟」という。）の令和6年度事業費予算のうち、進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナー費、イベント費等に必要となる事業費に対して助成する予定である。

(エ) 助成対象者からの助成申請及び実績報告

助成対象者からは書面による助成申請（事業の収支予算及び事業の実施概要）を受け、書面による実績結果（事業の収支決算及び事業の実施状況）を受ける。なお、助成申請及び実績報告は、助成対象者の組織的な機関決定を経たものであることを条件とする。

(2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア) 体験活動の所在地

広河原野営場：京都市左京区広河原尾花町 27 番地

（当法人所有：山林 22,559 平方メートル、原野 521 平方メートル）

(イ) 体験活動の運営主体

日本ボーイスカウト京都連盟

(ウ)体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(イ)広河原野営場は、京都北山の自然を堪能できる拠点として、またボーイスカウトが目指すハイアドベンチャーの基地として、活用の方法を紹介し、利用者増を目指す。

(オ)事業予算

事業費として、広河原野営場簡易宿泊建物にかかる減価償却費の他、整備委託費・修繕費として、50千円を見込む。

(3)指導者養成のためのプログラム企画運営事業：「連携」

(ア)趣旨

熱意ある指導者の育成は、喫緊の課題である。その人材を発掘し育成することはスカウト運動の普及に欠かせない。

(イ)連携の方法

大学生等から希望者を選抜し、登録費等の一部を補助する。定期的に報告を受けその助言によって指導者育成とする。

(ウ)予算

事業費（普及宣伝費）として、50千円を見込む。

(4)国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業：「イベント」

ボーイスカウトが主催する様々な行事が、参加者も主催者もワクワクする魅力ある活動であるか、またスカウト教育が目指す方向で成果があるかについて、外部の視点で評価し、支援の意義を高めていく。

(ア)国際交流・国際貢献活動支援

ボーイスカウトを対象に海外キャンプへの派遣、海外スカウトのホームステイ受入、国際協力プロジェクトの派遣実施等を予定している。

(イ)社会に役立つ事業活動支援

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会、全国車いす駅伝競走大会の沿道整理奉仕
防災意識の社会的な高まりにに応じて、日本連盟が推進する「全国防災キャラバン」の京都会場を、地区主催で府内各地で開催する。

多くの地道な奉仕活動により大会を支えている事実を、マスコミ報道を通じてクローズアップさせる。

(ウ)環境まち美化活動支援

「みどりの募金」活動、京都市「まち美化運動」に参加

(5)ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業：「広報」

ホームページのアクセス数が増えるよう、積極的に更新を図る。

(ア)ホームページの充実により、組織内外のコミュニケーションを促進する。

- ①団や地区主催の催しで、一般の子どもや保護者が参加可能な「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」「スカウト体験と説明会」「ビーバーランド」「カブラリー」等、およびスカウトの日（全国一斉に清掃などの奉仕活動を実施する）等について、ホームページ等にて告知し、地域の青少年の参加を促す。
- ②ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、ならびに不特定多数の方々に対して、ホームページ等を通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行う。
- ③ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員、および潜在的な維持会員に対して、ホームページ等を通じて、会費の協力を依頼する。
- ④OBの復帰受け皿としての「サポーター制度」を確立し、ホームページ等を通じて公募する。

(イ)事業予算

事業費として、132千円（ホームページ運営改革費）を見込む。

以上